本と地域の情報誌

県北 どらくろあ

第21号　2017年12月1日（毎月1日発行）

県北現代小史③ 庄原化石集談会（しゅうだんかい）

「里山で海洋探検」

海辺にはマングローブの林が生い茂り、温暖な浅瀬にはカニや貝などの豊富な生き物が生息。沖合には巨大なクジラが回遊して、豪快に潮を噴き上げている。これが太古の昔の庄原の姿なのである。

広島県北部に位置する庄原市を中心に分布する地層は「備北層群」と呼ばれ、千六百万年から千五百万年前に堆積したと考えられている。その地層群から産出する多くの化石が、当時の環境を雄弁に物語っている。

庄原化石集談会は、平成八年十二月に発足した。命名は、比婆科学教育振興会初代会長の故・広瀬繁登さん。

以前から広瀬さんは、自宅に「庄原子ども化石館」を設けて、地元で採集された化石を展示していた。学究だけではなく、化石をネタにみんなで楽しくわいわいやりましょう、集談会という名前にはそんな想いが込められている。

創立時からのメンバーに、山岡隆信さんがいる。子ども化石館に熱心に通っていたかつての化石少年だ。昭和五十七年、山岡少年によって発見されたクジラの化石は新種と判定され、ヤマオカクジラと命名された。他にもショウバラクジラ、ヒロセヒバクジラと、世界で未発見の新種のクジラ化石が三体、発掘されている。

これらの化石標本は、庄原市立比和自然科学博物館地学分館で見学することができる。実物大のクジラを模型で再現、その雄大さを体感できる。こうした新種を含む四種類、二十体以上のクジラ化石が狭いエリアの地層から産出、庄原は世界的にも有名なクジラ化石の宝庫なのだ。

現在の化石集談会の事務局長、大澤仁さんが化石に興味を持ったのは、小学生だった息子さんの自由研究がきっかけ。川手町にある自宅の前が西城川で、川原で一緒に化石を採集した。山岡さんがクジラの化石を発見した岩床も近くにある。集めた化石の正体を知りたくて、親子で広瀬さんの元に通うようになり、お父さんの方が化石の魅力にはまってしまった。集談会のゆるくて和やかな雰囲気も大澤さんに合っていた。

平成九年に広瀬さんが亡くなってからは、子ども化石館に代わる新たな活動拠点が必要だったが、木工所を営む大澤さんが作業所の二階を展示室に改装。平成十九年に「庄原化石集談会 Fossil Museum（化石博物館）」がオープンした。お手製の棚やテーブルに、集談会のメンバーによる化石標本が系列立てて展示されている（写真の人物は大澤さん）。

化石の標本ができるまでには、手間と労力が必要だ。化石を発見したら、持ち帰れるようにたがねとハンマーで周囲の石を砕いて小さくする。大きな化石だと、みんなで協力して作業することになる。

持ち帰った化石のクリーニングがまた根気のいる作業だ。たがねやハンマー、歯科医が使うような研磨用のドリルを使って、化石だけを彫り出してゆく。そのための作業場が木工所の裏手にあり、みんなでわいわいやりながら作業する時間がいちばん楽しいと大澤さん。化石少年に戻れる時間なのかもしれない。

とくに定例会というものはなく、メンバーが個々の空き時間や休日を利用して、化石の採集やクリーニング、標本の作製を行なっている。工事現場で化石が出たという情報があれば、みんなで出向くこともある。大掛かりな工事のときに、化石が見つかるケースが多い。庄原市高町のバイパス工事では、その当時の、日本最古の真珠の化石が発見されている。

庄原化石集談会の会員は現在、全国に四十人ほど。情報交換だけでまだ顔を合わせたこともない研究者の人もいて、地元のメンバーは十人ぐらい。化石の採集だけではなく、備北層群のガイドブックを発行するなど、庄原の化石文化の啓蒙にも取り組んでいる。依頼があれば化石採集などの体験学習や勉強会を開催、小学校の課外授業の要請も多いという。

ただし、基本はあくまで化石を楽しむこと。それが広瀬さんの子ども化石館からの伝統なのだ。一緒に化石を探してみませんか？　大発見があるかもしれませんよ。

・庄原化石集談会への連絡先は大澤仁（電話＆ＦＡＸ０８２４－７２－３７７６）
・Fossil Museum（化石博物館）の入館料は無料ですが、事前の予約が必要です。

図書館員ノート⑯
「図書館が大好き！」

私は図書館という空間が大好きだ。これは学生時代からそう。もっぱら文系の私は、学校の休み時間は図書室、空き時間があれば図書館へ行くほど、本のある空間が好きだ。

三次市に大きな図書館ができたときは、わたしがまだ小学生の頃だった。両親に連れてきてもらった記憶がある。図書館という空間はいつでもあらたな本との出会いを提供してくれた。本は「知ること」の楽しさを教えてくれ、新しい世界を教えてくれた。そして広い視野を持つことも教わった。うれしいときもかなしいときも、本はいつでも味方でいてくれた。とにかく私にとって、いろいろな世界を教えてくれたのが本であり、読書という空間を与えてくれる貴重な場所も図書館だった。

利用する側から、働く側となった今も、図書館が好きという思いは変わらない。

図書館はみんなのものであり、だれもが図書館を利用できる。利用する方にとって、自由に本を読み、快適な時間がすごせる図書館でありたいと思う。

――図書館って、本当に最高。
本を読むもよし。
勉強するもよし。
おはなし会に参加するもよし。
図書館のイベントに参加してみるもよし。

私自身、プライベートでもいろいろな図書館を巡るのが好きで、あっちこっちの図書館にふらっと立ち寄る。なかでも三次市の図書館は蔵書数も多いし、おはなし会も充実しているし、図書館のイベントも豊富だ。

この「県北どらくろあ」を読んでくださっているあなたは読書がどちらかというとお好きだろうと思う。図書館を日頃からよく利用されるだろうか？　図書館は本当にいいところだ。ぜひお近くの図書館に足を運んでいただきたい。そして、機会があれば三次市の図書館にも足をのばしてみてほしい。新たな発見があるかも♪

ご来館をいつでもお待ちしております。

三次市立三和図書館　Ｙ・Ｔ

大佛次郎『鞍馬天狗』
――「正義の味方」こそ強み

11月の本欄（「坂の上の雲」）で「時代小説」に触れたので、時代小説の傑作を取り上げてみます。大正末に始まり昭和40年（1965年）までの40年余、いくつかの月刊誌で連載された大佛（おさらぎ）次郎『鞍馬天狗』（中央公論社版・全10巻）です。

私は若い頃に、手持ちぶさたな1日、夢中で読みました。1編毎の読み切りでした。倉田典膳を名乗る鞍馬天狗という架空の主人公が、読者をはらはらさせながら活躍するのです。

全編に共通しているのは、幕末の動乱期にあって、鞍馬天狗は「勤王の志」を持った剣の達人だということです。徳川幕府や新撰組に狙われながら、京や江戸に出没します。西郷隆盛や益満休之助と気心通じて、薩摩藩邸に出入りします。作品によっては、角兵衛獅子の杉作や黒姫の吉兵衛が登場して手助けもします。

これだけのことなのに、どうして根強い人気なのでしょうか。60本近い映画や、TVドラマにも登場し、映画ではアラカンこと嵐寛寿郎が扮する鞍馬天狗の人気が圧倒的でした。ここぞという時に、黒覆面の姿で白馬に乗って現れるのです。この場面が見たいために、映画館に足を運んだファンも多かったのです。でも小説には、白馬でさっそうと登場する筋書きはないのです。アラカンがつけ加えた鞍馬天狗像なのです。後になって大佛次郎が、自分の作品のイメージと違うとして、アラカンの映画に待ったをかけました。鞍馬天狗はそう簡単には人を殺さないというのが理由でした。

全集の『鞍馬天狗』は作品計30編。振り返ると私は、70年代によく読んでいました。でも、「好し」の○印をつけているのは多くありません。「女郎蜘蛛」「鞍馬の火祭り」「雁のたより」などです。他の多くは記憶に残っていません。それでも飽きずに読んでいたことになります。

世の中が大きく変わる幕末に興味を持っていたことが背景にありましたが、やはり本筋は痛快さでした。アラカンの映画は、それに輪をかけてくれました。鞍馬天狗は、「正義」のために捨て身で世の闇に挑戦しました。その上、決して負けないという安心感から、ページを開いたと思います。

今読み返すと、なぜかあまり興がのりません。一口に言うと、いまや「時代が違う」と痛感するのです。世の中は何が正義なのか、単純でなくなっているような気がします。では、小説が受けた大正末から戦後の70年代ころまでひと続きに、人々に共通した「正義」があったと言うことになるのでしょうか。考えさせられます。

大佛次郎は選集の「あとがき」で、「文壇の人たちがやろうとしない、読者を楽しませる小説」だったと書いています。この後は、膨大な資料を使って明治維新を描いた『天皇の世紀』（朝日新聞社版・全10巻）の傑作を残しています。他に『帰郷』『宗方姉妹』などの純文学作品もあります。

こうしてみると、知的な歴史小説に対し「時代小説」は、読む人の心躍らせ、明日への活力になってきたように思えます。

また読んでみたい本㉑
――――青年たちに

音谷 健郎

【鞍馬天狗 表紙】

古今東西の文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の青年たちにも読んでもらいたいと思い、毎月１冊ずつ紹介しています。

第21回は、大佛次郎の『鞍馬天狗』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧･庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を経て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

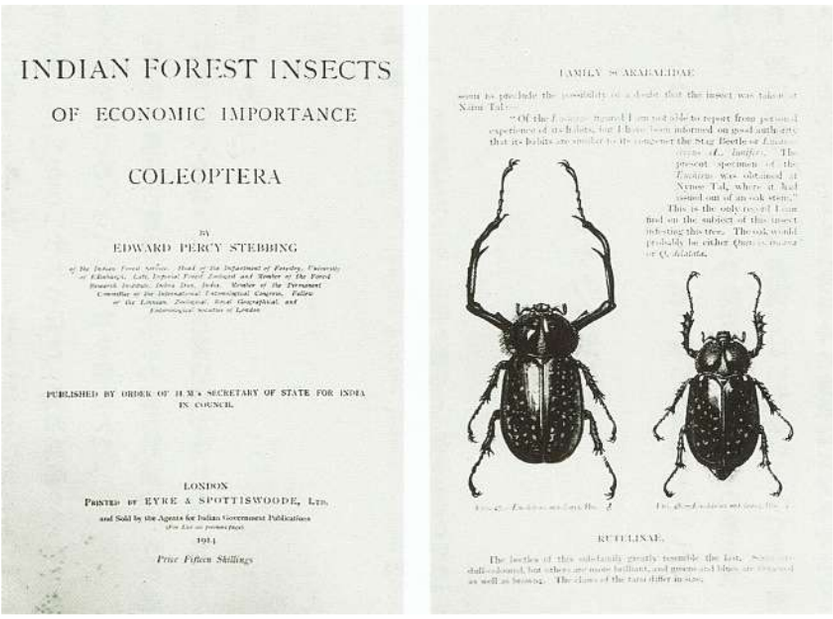
虫と草木と人びとと⑨　中村慎吾

「虫の本と私」

著者紹介：一九三一年、比婆郡（現・庄原市）比和町に生まれる。農学博士（九州大学）。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びとと」（シンセイアート出版）から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

書架に並ぶどの本をとっても、それぞれのいろいろな思い出がある。本を集めることには虫の標本を集める以上に強い執着をもっているので貧書生の身では思うにまかせて本を買い求めることができず、それだけに座右のどの本にも感慨は尽きない。



Stebbing の「Indian Forest Insects」の扉と同書の 55p.

子どもの頃韓国の片田舎で過ごしたので、遊び相手は川の魚たちであり、裏山の小鳥で、それらを捕らえて飼うことが楽しみで、そんなことに明け暮れしていて、本とはあまり縁がなく生き物から直接にそのくらしを教わるという日々であった。だから本への開眼は遅く敗戦後、日本へ引揚げて再入学した旧制中学校の生物教室にあった松村松年先生の『千虫図解』や『続日本千虫図解』、『新日本千虫図解』、『日本昆虫大図鑑』、それに北隆館の『日本昆虫図鑑（旧版）』などが、虫の本との最初の出会いであった。松村松年先生の『日本昆虫大図鑑』の各目の解説はザラ紙のノートにていねいに書写し、今でも大切に保存している。後にこれらの図譜類を古本市で探し出し、書架に収めているが、それらの本を掘出したときの喜びは忘れようにも忘れることができない。

カミキリムシの研究者はチョウに次いで多いが、私がカミキリムシの幼虫を調べようと思ったのはチョウの勉強には文献を集めるのが大変だということやカミキリムシの分類の勉強もやはり文献集めに金がかかり、とうてい貧書生には難しいことなので、本を買わずに済むというと幼虫の形態なり生態だと、ごく単純に考えて始めたが、そう簡単なことではなく早計であった。小島俊文博士が東大農学部紀要に載せられた二篇の論文を出発点に幼虫の勉強を始めたが、カミキリムシの分類の基礎であるCRAIGHEADの大著やBOVINGとCRAIGHEADの『甲虫類幼虫の検索』などの著書を知り、また、インドの材料を中心としたBEESONとBHATLAの『Biology of Cerambycidae』といった名著があることが判ると、如何に自分が無知

であったか穴があれば入りたい気持ちである。それらは今のようにコピーができない頃なので、フィルムに収め、焼けつけ、スクラップブックに整理しているが、少々、目が弱くなり始めたこの頃こまかい活字はとても読みづらく、後に入手した原本と比べながら懐かしく過ぎた日を思い起こしている。

BEESONとBAHTLAの論文を読んでいた頃、STEBBINGの『Indian Forest Insects-The Economic importance Coleoptera（一九一四年）』のことを高知大学の小島圭三教授より教わり、それはカミキリムシの博物学的な記述をふくむ名著だということを知った。しかし、それは六百ページを超える大著で、その三分の一をカミキリムシが占めているのでコピーする術もなく、また、現物にもとうとう接することもなく、私にとって全くの「幻の本」となっていた。

昭和四十六年四月、台北へ赴任した私は、台北日本人学校に赴任の挨拶のため、易希陶先生（国立台湾大学農学院教授）のお宅へ伺う道すがら、易希陶先生のお宅のある古亭街が台北名物の露天古書店街であることを知った。私の探書癖はむらむらと湧き、その挨拶の帰りを手初めに暇があれば訪ねて道端のほこりにまみれた本を鵜の目鷹の目で探した。ある日、路傍の片隅にSTEBBINGの著書が寺西暢遺稿集と並んでいるのを見つけた。そのとき夢ではなかろうかと我が目をしばらくの間疑った。恐る恐るなけなしの中国語を使って交渉すると、STEBBING の大著は二五〇元（邦貨二千五百円）、寺西暢遺稿集は一五〇元だという。あまりの安価におどろいていると「二冊まとめて買ってくれたら三五〇元でよい」という。私はためらうことなく三五〇元を支払い、あとで一桁ちがっているといわれてはと、胸の高鳴りをおさえて帰宅した。そして、我が部屋に落ちついて何度もページをくりかえしめくっては、本を楽しんだ。

古亭街の露天古書店も台北市の都市計画で、立ち退きとなり、私が帰国した昭和四十九年三月には姿を消し、松江路に装いを新たにして古書店街が生れた。名物だった露天の古書店が消えてしまったのは私にとって淋しい限りである。

郷土の本棚②
「ひばだこ がんばる」
沖井千代子 著

越原左衛門（おっぱらざえもん）ものがたりの副題。「ひばだこ」とは、比婆のタコ、山奥に住む田舎者を揶揄する昔話だ。町の魚屋で初めてタコを見た越原左衛門が、どうやって食べるのかと尋ねると、つくって食べるのだという。それで、作物と同じようにタコを畑に埋めて育てようとした云々。

小学校の社会科の宿題で、郷土の人物を調べることになったあやちゃんが選んだのが、越原左衛門だった。宿で出たアサリ汁を、はらわただと思って中身を出して殻だけ食べた話。村外れの水車を化け物と勘違いして退治しようとした話、等々。

しかし、あやちゃんは、越原左衛門が越原の地の名主であり、北備後地方を襲った大飢饉のときに、郷倉に備蓄してある年貢米を勝手に供出してしまい、三次代官所で打ち首になったという古文書にたどり着く。北備後の大飢饉ではたくさんの餓死者が出たが、越原村で飢え死にした人は一人もいなかったという。

笑い話に出てくる間抜けな田舎者と、自分の命を投げ出して飢饉から人々を救った名名主、いったいどちらが本当の越原左衛門なのか。そこには、鉄の産地として領土争いに巻き込まれてきた住民の生き残るための知恵があった――。

昭和五十年講談社刊。子供はもちろん、大人にも読んでほしい本である。

特別寄稿・創作童話

作：池峠英夫
タイトル画：上田としのぶ

ごんげん山のキツネ

さざん川からごんげん山に、もう吹雪が空に向かって舞い上がります。

キツネの親子は、洞穴の寝床で春がくるのを待っています。

食べ物も、全部なくなりました。リスでも運んだのか、ドングリが奥に少しあります。キツネは、ドングリは食べなかったけど、思い切って食べてみると、意外においしいのです。でも、それも二つになりました。

あたたかい、おかあさんの胸に抱かれていた子ギツネのちびがいいました。

「おかあさん、おなかへったよ～。」

外は、もっと吹雪がはげしくなっていきます。おかあさんは、ちびのことを思い決心したのです。

「ちび待っててよ！　この雪では、近くで食べ物をさがすのは無理だから、町に出て食べ物をこのドングリ二つで交換してもらってくるよ。」

おかあさんは、ちびを洞穴のいちばん奥にいるようにいいきかせました。

「帰ってくるまで絶対に外に出たらだめよ。りょう師のりょう銃にうたれるからね。」

「行ってくるからね。」

おかあさんは気合を入れて、吹雪

どら書房 喫茶コーナー

モカ、コロンビア、イタリアン等々、
本格コーヒーやってます。

試飲券50円（通常150円）
※切り取らずにお持ち下さい。

どら書房 委託販売コーナー

★「天馬書林」
新書の教養書や人生指南本、ノンフィクションが充実。

★「サワちゃん文庫」
中国、日本の歴史書、思想書が中心のラインアップ。

各専用棚で好評販売中！

の中に出て行きました。
息たえるほど大変です。やっとのことで平地に出ました。
一面まっしろでよくはわからないけど、たぶん田んぼでしょう。そのしょうこに、ぼろぼろのレインコートを着たカカシが一つ立っています。
「よし、これを借りよう。」
なんとか人間に見えるでしょうか。
どれくらい歩き続けたのだろう・・・。
あたりはすっかり薄暗くなっていました。
「がんばれ！ がんばれ！」
おかあさんは、自分をはげます。
やっと町のはずれまでたどりつきました。そこに一軒の小さなうどん屋がありました。
おそる、おそる、のれんをくぐり中に入りました。
「いらっしゃい。」
ちゅうぼうの中から元気のいい主人の声がむかえてくれます。
「コン・・・！」
「はい、こんばんは。」
主人はやさしい目でむかえてくれました。
「今日は、お客さんが一人もきませんでしたから、うれしいですね。」
「レインコートのすそにツララがたれさがっていますよ。寒かったでしょう。さあ、奥へ、奥へ。」
主人の動きがぴたりと止まりました。
「う～ん。」
でも、主人は、すぐにやさしい笑顔になりました。
「き・・・・・。」
「はい、しょうちしました。」
「きつねうどんですね。」
おかあさんは、うどんは一口もせず、あげだけをポケットに入れました。
それを見て、主人は、
「う～ん。」
また、うなずきました。
「それでは、あげだけですから、二百円になります。」
おかあさんは、ポケットからドングリ二つ渡しました。
「でも今日は大サービス、百円でいいです。」
ドングリ一つ、ポケットにかえしてくれました。
うれしくなり、おかあさんはとびはねます。レインコートのすそに、しっぽがちらり、ちらりと見えました。
「人間てやさしいんだな・・・。」
おかあさんは人間をこわがらなくなりました。
ちびの待つ洞穴にたどり着く寸前、りょう師とすれちがいました。
それから間もなくです。
「どが～ん。」
ごんげん山に銃声がひびきます。
ほかほかで、ほのかな甘さのあげと、ドングリ一つが寒空にまい上がりました。
「ち、ちび～・・・。」
次の日ちびは、あげを見つけて食べて冬を越すことができました。
あれから何年も月日が過ぎていきました。ちびも、おかあさんになっていました。
ふしぎなことに、洞穴の前にドングリの木がはえて今は、いっぱい実がなり落ちてきます。
あのときのように猛吹雪の冬です。
ほんのりとあたたかい洞穴で、ちびの子どもは、おかあさんにドングリの食べかたを教わっておいしそうにいっぱい、ドングリを食べています。
「ありがとう。」
ちびは心の中でいいました。

まちの古本屋さん
どら書房
古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

・無料本、百円本、50 円本などのコーナー。
無料の漫画ルームもあります。
・地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
※九日市の開催日は定休日でも開店します。

●庄原市中本町 2-1-10　●定休日：毎週月・火曜日
●営業時間 :9:30~19:00　●TEL: 090(9913)3052
※広島銀行庄原支店の手前 (三次側から)※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

< 広告料 1/4 ページ 1 回 2,000 円 半年間 9,000 円 1 年間 1,5000 円 >

今月の3冊

どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「さらば愛しき女よ」

レイモンド・チャンドラー 著　早川書房

ハメットで産声を上げたハードボイルドは、チャンドラーによって生身の人間ドラマになった。いま読み返してみると、皮肉の効いた会話は比喩が冗漫でいささか鼻につくが、端役の登場人物までリアルに描かれていて、その体臭や香水がただよってくるようだ。

中年のくたびれた騎士、私立探偵のフィリップ・マーロウの魅力が満載だが、ストーリーとしての完成度も高い。カッコ良さの原型がこの中にある。意識していようが、無意識であろうが、マーロウの亜流が、あるいはその子孫が、現在でも綿々と生み出されている。エンターテイメントが読者に夢を与える娯楽であるのなら、「カッコ良い」は永遠のスタンダードだ。

「みのたけの春」

志水辰夫 著　集英社

志水辰夫の作品を紹介するのは 2 回目。前回は「深夜ふたたび」、和製ハードボイルドの傑作。今回は幕末を舞台にした時代小説だ。北但馬の農村で暮らす榊原清吉は、養蚕で生計を立てながらつましく暮らしている。私塾仲間の諸井民三郎が刃傷事件を起こしたことが契機となって、清吉自身にも、静かな山村の世界にも、幕末の動乱の波が押し寄せてくる。

主人公は病身の母を守るために、平穏な暮らしに固執する。周囲からその資質を高く評価されても、郷里から出ようとしない。無名の若者を描いて、地味だが読み応え充分。70 歳を過ぎて書いた作品は「円熟」、いや「到達」という言葉がふさわしい。

「戻り川心中」

連城三紀彦 著　講談社

大正歌壇の寵児・苑田岳葉は二度の心中事件で二人の女性を死なせている。無様に生き残った岳葉は、その情死行を歌集に結実させて、一人で自害する。歌壇史に残る傑作を遺して夭折した天才の心の闇に巣くう真実とは?

退廃的な大正浪漫あふれる情愛を描きながら、この作品は冷徹なミステリーである。計算され尽くした完璧な推理小説である。そして、説得力のある人間ドラマでもある。短い作品だが、結末に驚嘆し、その余韻にしばらく浸っていた。苑田岳葉が太宰治をモデルにした人物であり、作中に出てくる短歌もすべて創作であることを知ったとき、さらに驚いた。この作者こそ、天才である。

どら書房 ≪貸本屋システム≫

・店内で販売した本は、どら紙幣 (店内専用通貨) であれば半額、現金であれば 3 割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引

・書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

どらくろ俳壇

雪虫のブルーは天の欠片らし　近藤 昌平

蔦枯葉捨て場の如く吹き溜まる　原 博己

地を覆う落葉へ止まぬ木の葉かな　片岡 正人

縄文の土笛の音雁来紅
（雁来紅は葉鶏頭の別名です）　隆愚

遺伝子が最後にコケて除夜の鐘　赤川 冬人

※投句を歓迎します。

投稿＆寄稿

「綿入りコート」　M・A

いつの間にか、師走の風が吹いている。いろいろと仕事や行事が立て込んで、何かとせわしない月である。歳末ともなると、正月の準備もあって、さらに忙しくなる。

これは案外、先人の知恵ではないかと思うことがある。冬至に向かって日がどんどん短くなって、つまり夜の闇の時間が増えて行くのだが、そんなことを気に病んでいる暇がないほどにせわしなく日々が過ぎて行く。

暦が太陽の周期を元にしているのであれば、芽吹きの春の四月をスタートとしても良いと思うのだが、厳冬の時期を元旦としたのは、冬至を過ぎてこれから太陽が元気を増してくるという祝いの他にも、冬眠しがちな心身に活を入れるという意味合いもあったのではないか、そんなことを考えてしまった。

東京の近郊で暮らしていたとき、歳末になると楽しみにしているイベントがあった。教会のバザーである。歳末の助け合い運動の寄付金を募るという目的で、毎年クリスマス前に開催されていたように記憶している。キリスト教系の大きな病院に併設された教会で、品物がたくさん出ていた。

フリマ好きで、近所の公園で開催されていたフリーマーケットによく足を運んでいた。今でもそのときに買ったものが残っている。百円で買ったジーパンはお気に入りで、今でも旅行の時はそのジーパンを穿いて出かけることが多い。

私が店で買うときは、値段の安いものばかりを買っているので、フリマの品物の方がよほど上質なのだろう。気に入って長らく愛用しているものには、フリマで買ったものや人からもらったものがけっこう多い。

さて、教会のバザーだが、そこで厚手のトレンチコートを買った。五百円の値段に少し迷った。ちょっと緑がかったカーキ色で、防寒のために中に綿が入っている。サイズはちょうどいいが、かなりくたびれている。正直、色やデザインも含めて、じじくさいと感じた。

結果的に、買っておいて良かった。通勤などで着ることはなかったが、冬場の葬式のときにとても役に立った。寒風が吹く墓地で僧侶の長い読経を聞いているときでも、厚手のコートを着ていると辛くなかった。礼服がスリーシーズン用、夏でも着られる薄い生地なのでありがたかった。

デザインも、じじむさい方が葬式ではスタンダード。ただし、キリスト教の教会で買ったコートに守られながら、数珠を握って念仏を唱えている自分に、ちょっぴり苦笑を浮かべたものだ。そのコートも、傷みがひどくなって処分してしまい、想い出となっている。

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

ー 硬式テニス参加者募集 ー

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)
場所：三次運動公園の屋内＆屋外コート
・火曜日（9:30 ～ 12:00）
・水曜日（9:30 ～ 12:00）
・土曜日（10:00 ～ 12:00）
連絡先：中川 (☎080-5610-2376)

陶芸教室

洲澤陶芸教室（電動ロクロほか成形全般）

・県大前教室 (0824-72-0686) 月謝 2,000 円
　金曜日 (毎週) 午後 1 時～4 時 30 分
・敷信自治センター教室 (0824-72-0571) 月謝 1,000 円
　木曜日 (第二、第四) 午後 1 時～4 時 30 分
・庄原小学校前教室 (0824-72-1074) 月謝 1,000 円 (月2回)
　月曜日～水曜日 (希望する日) 午後 1 時～4 時 30 分
※詳しくはお電話ください。0824-72-1074 (夜間を希望)
　洲澤悦二 (庄原市西本町 2-11-19)

《情報＆原稿を募集します!!》

●仲間募集　●教室＆講座案内
●イベント情報　●あなたの大切な本の紹介
●ボランティア・ライター (現地記者) 募集！
※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載しているので、ダウンロードしてお楽しみいただけます。

http://shobara.wix.com/dorakuroa

「仲間になってください」

障害者や高齢者の施設に出向いていろんな行事のお手伝いをしたり、災害被災者の救援活動をしています。「出来る時に、出来る事を」をモットーに、活動を楽しんでいます。

福祉ボランティアグループ・庄原市まちづくりを進める市民活動登録団体
ほほえみの会
連絡先：寺岡隆行（TEL&FAX 0824-72-2793　携帯 090-7540-9029）

編集後記

◇雪の季節が近づいてきました。車のタイヤをいつ冬用に交換するのか、悩む時期でもあります。何日か前から冷蔵庫の牛乳が凍ってシャーベット状になっています。外気の方が冷たいのでしょうね。

◇今回の現代御伽草子はお休みで、寄稿していただいた創作童話を掲載。どらくろあが、こうした創作活動の発表の場になればと考えています。投稿＆寄稿、群星伝や現代小史の推薦も常時募集しています。

◇寒いと部屋の中で本を読む人が増えて本が売れる、いや本屋まで出かけるのがしんどいので本が売れない……。さあ、答えはどちらでしょうか（苦笑）。

発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090（9913）3052（赤川）
e-mail：touzin@sannet.ne.jp
年間購読料：2,000円（郵送費込）

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会

九日市だより

出店者の紹介をさせていただきます。 買物＆散策の参考にして下さい。
※最終頁の出店地図に掲載していない店は、 今月はお休みです。

◆ すけあくろう　コーヒー、親鶏の塩焼き、自宅は音楽スナック（庄原市一木町）
◆ ギャラリー三村　古物、骨董、雑貨（広島市）
◆ 昭助　焼きそば、旬の野菜（庄原市市町）
◆ とらぢ　キムチ、自宅は韓国料理（庄原市高町）
◆ 二八そば加工所　そばカリントウ、餅他（庄原市比和町）
◆ 手づくり工房アーミッシュ　シフォンケーキ、椎茸他（庄原市口和町）
◆ 佐藤食販　にぎりちくわ、野菜天他（福山市草戸町）
◆ さだっさ　旬の野菜、実留永山の醤油他（庄原市宮内町）
◆ リトルマーメイド庄原店　九日市サンド、パン他（庄原市中本町）
◆ 健康企画グループ　東城の豆腐、寿司他（三次市甲奴町）
◆ 梛家（ナギンチ）　押し花アート、野菜他（庄原市三日市町）
◆ ハートワークカンパニー　染物、アフリカ民芸布他（庄原市比和町）
◆ 郷屋　木工品、まな板、盆他（尾道市因島土生町）
◆ なかや　古布の小物他（広島市）　◆ くまさん　衣類、雑貨他（三次市畠敷町）
◆ 工房アム　創作額縁、アクリル絵他（広島市南区）
◆ ちくちくハウス玉手箱　布手芸品（庄原市川西町）
◆ かぐや姫　布手芸品（広島市安佐北区）　◆ 宮川屋　餅、麹、惣菜他（庄原市口和町）
◆ やまのおみやげや　木工品、かずら細工他（庄原市宮内町）
◆ ママンドール　手づくりドール、雑貨（三次市畠敷町）
◆ ルームオブケイコ　トンボ玉、アクセサリー（庄原市口和町）
◆ めだかの学校　手芸品、野菜（三次市吉舎町）
◆ 花一　盆栽、山野草他（岡山市北区）　◆ 砂田海産　海産物、魚干物他（尾道市）
◆ アパレルゴトー　日田焼き杉下駄（福山市新市町）
◆ タツミ矢　衣類（福山市駅家町）　◆ 開盛社　姓名判断、印鑑、表札（呉市）
◆ まなべ商事　タオル、肌着、靴下他（愛媛県今治市）
◆ 克国水産　魚干物他（福山市鞆町）　◆ TSUBAME　靴各種（福山市）
◆ よりんさいコーナー　地域包括支援センター、血圧測定、健康相談、介護相談
（庄原市高齢福祉課、市内老人介護施設合同）
◆ 吉備路花田FF　旬の果物（岡山県総社市）　◆ 山本水産　魚干物他（島根県浜田市）
◆ 庄の助栄泉　自然薯入り蒸し饅頭（庄原市板橋町）
◆ くんえん工房香豚　豚燻製他（世羅郡世羅町）
◆ ハナビラタケ広島販売　ハナビラタケ、麩他（庄原市実留町）
◆ 阿波屋刃物　刃物他（島根県仁多郡奥出雲町）
◆ 田崎屋　骨董、雑貨（広島市南区）　◆ 前場衣料　作業衣類他（府中市上下町）
◆ 佐藤園芸　花、鉢物（岡山県都窪郡早島町）
◆ 久代はなみずき　山菜おこわ、餅他（庄原市東城町）
◆ お福　着物、古布、小物他（広島市東区）　◆ どんぐりーず　焼き芋（庄原市東本町）
◆ 猫犬フリマ　猫と犬のグッズ、衣料、雑貨（世羅郡世羅町）
◆ 細田漬物　野菜各種の漬物（島根県雲南市大東町）
◆ 八鉾自治振興区玉ネギ染め　玉ネギ染め（スカーフ）、野菜（庄原市西城町）

・「しょうばら九日市」 ホームページ出店者紹介コーナーもご覧下さい。
・出店希望の方は、 楽笑座内事務局へご連絡下さい。 （0824-72-8285）

第203回　しょうばらくんちいち

「庄原九日市」

平成29年　12月9日（土）9：00～13：00

庄原九日市とは？

天正年間（440年前）に物々交換で始まった市（いち）。
昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し2001年に復活。

TOPICS

★市民ギャラリー「アート多愛夢」
➡わら細工・高齢者手作り作品展
12月8日（金）～10（日） 10時～16時

★どら書房
➡月曜日と火曜日はお休み

★風龍
➡九日市スペシャル・餃子200円

★楽笑座で「まかない食堂」「うた声喫茶」開催

★なでしこ「着物リサイクル」

出店配置図

❶ お休み

❷ ギャラリー三村

❸
とらぢ
二八そば加工所
アーミッシュ
さだっさ
リトルマーメイド
健康企画グループ

❹ なでしこ

❺ ちくちくはうす玉手箱
工房アム　郷屋
かぐや姫　椰家

❻ めだかの学校
ROOM OF KEIKO
ラブ・ベイビー

❼

❽ タツミ矢

❾ まなべ商事

❿ 克國水産

⓫ 開盛社

⓬ お休み

⓭ 山本水産
くんえん工房 香豚
ハナビラタケ広島
庄之助栄泉

⓮ 阿波屋刃物

⓯ 佐藤園芸
砂田海産
田崎屋

⓰ お福
どんぐり～ず

出店申込みは、【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース1,000円～　九日市愛好会事務局
〒727－0013　庄原市西本町2－1－10楽笑座内　TEL/FAX (0824)72-8285

ホームページ
http://www.kunchi-ichi.jp